

第4学年 外国語活動学習指導案

日 時 令和7年11月21日（金）2校時

指導者 HRT 齋藤 剛

JTE 川原 恵子

場 所 4年教室

1 単元名

What do you want?

～家族や友達、先生に感謝や応援の気持ちが伝わるオリジナルピザを作ろう～

（参照：『Let's Try! 2』Unit7「What do you want?」）

2 児童について

昨年度から本学級を担任し、外国語活動も共に過ごしてきた。昨年度は、英語に苦手意識をもつ児童も少なくなかったが、学習を重ねる中で徐々に自信をつけ、英語によるコミュニケーションの楽しさを実感しながら、積極的に活動に参加する姿が見られるようになった。

しかし、4年生になり、学習する語彙や表現が増えたためか、「何て言うん」「何て言っているかわかん」などの発言が聞かれたり、英語を使って友達や指導者と関わり合うことにためらう姿が見られたりする。また、言語活動を行っていても、自分のことを伝えることに精一杯で、相手に配慮したコミュニケーションとはなっていない状況があった。

こうした実態から、まずは、児童自らが「やってみたい」と思えるような、目的意識と相手意識を明確にした魅力的なゴールを設定し、それを児童と共有して学習を進めた。そして、言語活動を重視しつつ、児童が音声に十分慣れ親しめるよう、チャンツやゲーム等の活動を積極的に取り入れることにも留意した。その結果、英語を聞いたり話したりすることへの抵抗感が軽減し、少しずつではあるが英語を使ったコミュニケーションを楽しむ姿が見られるようになってきた。

3 単元について

本単元では、尋ねたり答えたりして欲しい食材を集め、自分にとって身近な人に感謝や応援の気持ちを伝えるためにオリジナルピザを作って紹介し合う。児童にとって身近な食材を扱い「パフェやピザを作る」という活動が、児童の「やってみたい」という意欲を高める魅力的な単元になると考える。

本単元には、二つの異なる「目的」と「相手」が存在する。一つは、単元全体を通して児童の意識の中に流れる「感謝や応援の気持ちを伝えるためにピザを作りたい」という目的であり、その気持ちを届ける相手（家族や友達、先生など身近な人）である。「誰に、どんな気持ちを伝えたいか」「どんなピザを作れば喜んでもらえるか」という温かい思いが、児童を主体的な活動へと導く原動力になると考える。もう一つは、本時の「コミュニケーションを行う『目的』と『相手』」である。児童は、食材を売る側と買う側の両方の立場を経験することになる。活動を通して、相手の考えや気持ちをよく知るために、また自分が言いたいことをより分かってもらうために工夫しながら伝え合う姿を期待したい。

第1時では、野菜や果物の言い方を知り、ポインティングゲームやカード交換の活動を通して語彙や表現に慣れ親しむようにする。また、授業の最後には、HRTのオリジナルピザを贈る相手に対する特別な思いを伝え、「感謝や応援の気持ちが伝わるオリジナルピザを作る」という単元ゴールを共有する。第2時では、前時に知った野菜の言い方を使って、欲しい食材を尋ねる“What do you want?”やそれに答える“I want ～.”の表現に慣れ親しむために、ペアでサラダ作りを行う。さらに、第3時では、パフェ作り必要な食材を集める活動を通して、果物の言い方や欲しい食材を尋ねる“What do you want?”や“I want ～.”の表現に十分に慣れ親しませる。第4時で

は、事前に考えておいた「だれのために」「どんなピザ」を作るのかを書いたメモをもとに、売る側と買う側に分かれ、尋ねたり答えたりして欲しい食材を集める。その際、互いの考えや気持ちを分かり合うやり取りとなるように、本時のねらいを意識付けるとともに支援を行いたい。授業の最後には、JTEが作ったオリジナルピザの紹介を聞き、次時の活動への意欲を高めるようにしたい。第5時では、前時に集めた食材をもとにオリジナルピザを作り、学級で紹介し合う。紹介したオリジナルピザは、後日、自分が贈りたい相手にプレゼントする。

こうした学習を積み重ね、本校の研究主題である「児童自らが目的意識・相手意識をもち、主体的に関わり合う言語活動」の実現を目指したい。

4 単元の目標

互いの考えや気持ちを分かり合うために、欲しい食材について尋ねたり答えたりして伝え合う。

5 単元の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
話すこと(やり取り)	欲しい食材について、What do you want?やI want ～. などを用いて、欲しいものを尋ねたり答えたりすることに慣れ親しんでいる。	互いの考えや気持ちを分かり合うために、欲しい食材について尋ねたり答えたりして伝え合っている。	互いの考えや気持ちを分かり合うために、欲しい食材について尋ねたり答えたりして伝え合おうとしている。

6 単元の指導と評価の計画（5時間）

時	目標（◆）と主な活動（○）	評 価		
		知 技	思 判 表	態 度
1	◆野菜や果物の言い方を知る。 ○Let's Watch and Think ○ポインティングゲーム ○Activity ・カード交換をする。 ○教師のオリジナルピザを紹介する。			本時は、記録に残す評価は行わないが、目標に向けて指導を行う。

2	◆野菜や果物の言い方や欲しいものを尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しむ。			
	○Small Talk ・指導者の話から、欲しいものを尋ねたり答えたりする表現を知る。 ○Let's Chant ○ラッキーカードゲーム ○Activity ・尋ねたり答えたりして食材を集め、オリジナルサラダを作る。			本時は、記録に残す評価は行わないが、目標に向けて指導を行う。
3	◆欲しい食材について尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しむ。			
	○Small Talk ・指導者の話から、欲しいものを尋ねたり答えたりする表現を確認する。 ○Let's Listen① ○Let's Chant ○Activity ・尋ねたり答えたりして食材を集め、オリジナルパフェを作る。	や		◎欲しい食材について尋ねたり答えたりしている。(行動観察・振り返りシート)
4 (本時)	◆互いの考えや気持ちを分かり合うために、欲しい食材について尋ねたり答えたりして伝え合う。			
	○指導者のやり取りから本時のねらいをつかむ。 ○Let's Chant ○Activity ・尋ねたり答えたりしてオリジナルピザの食材を集める。	や	や	◎欲しい食材について、尋ねたり答えたりしている。(行動観察・振り返りシート) ◎互いの考えや気持ちを分かり合うために、欲しい食材について尋ねたり答えたりして伝え合っている。(行動観察・振り返りシート) ◎互いの考えや気持ちを分かり合うために、欲しい食材について尋ねたり答えたりして伝え合おうとしている。(行動観察・振り返りシート)
5	◆互いの考えや気持ちを分かり合うために、欲しい食材について尋ねたり答えたりして伝え合う。			
	○Activity1 ・欲しい食材を尋ねたり答えたりして食材を集め、感謝や応援の気持ちが伝わるオリジナルピザを作る。 ○Activity2 ・オリジナルピザを紹介し合う。		や	◎互いの考えや気持ちを分かり合うために、欲しい食材について尋ねたり答えたりして伝え合っている。(行動観察・振り返りシート) ◎互いの考えや気持ちを分かり合うために、欲しい食材について尋ねたり答えたりして伝え合おうとしている。(行動観察・振り返りシート)

7 「CAN-DOリスト」の形での学習到達目標（第4学年）

聞くこと	話すこと [やり取り]	話すこと [発表]
・ ゆっくりはっきりと話された際に、ジェスチャーやイラスト、写真などの視覚的補助を手がかりにして、天気、曜日など身の回りのものに関する基本的な表現を聞き取る。	・ 友達や先生と基本的な表現を用いて、挨拶をしたり、簡単な指示や依頼をしたり、それらに応じたりする。 ・ 友達や先生からのサポートや視覚的な補助があれば、自分の好みや欲しい物などについて簡単な語句や基本的な表現を用いて質問をしたり、質問に答えたり、それに対して反応したりする。	・ 自分の好き嫌いや欲しい物などについて、実物やイラスト、写真などを見せながら簡単な語句や基本的な表現を用いて話す。

8 本時の活動（第4時）

（1）目標

互いの考えや気持ちを分かり合うために、欲しい食材について、尋ねたり答えたりして伝え合う。

（2）展開

時間	児童の活動	指導者の活動		指導上の留意点 ◎評価規準（評価方法）
		HRT	JTE	
2分	・ 挨拶をする。	・ 全体に挨拶する。		・ 挨拶をし、楽しい授業の雰囲気をつくる。
8分	・ 指導者のやり取りから本時のねらいをつかむ。	・ JTEと欲しいものについてやり取りし、本時のめあてを確認する。	・ HRTと欲しいものについてやり取りし、活動のモデルを示す。	・ オリジナルピザを作る目的を確認させるとともに、本時のねらいを意識させ、活動への意欲付けを図る。
	相手を意しきして、ほしい食材をたずねたり答えたりしよう。			
4分	・ チャンツをする。	・ チャンツをすることを告げ、児童の活動をリードする。	・ 音声のモデルとなり、児童と一緒に活動する。	・ リズムに乗って繰り返すことで、楽しみながら表現に慣れるようにする。

19分	・ 尋ねたり答えたりして欲しい食材を集める。 (1回目) ・ 活動を振り返り、よりよい活動となるよう改善する。 (レベルアップタイム) ・ 尋ねたり答えたりして欲しい食材を集める。 (2回目)	・ 必要に応じて個別に支援を行う。 ・ 中間指導を行い、本時の目標に沿って、児童自身が活動を振り返り、改善点等に気付くことができるようにする。 ・ 児童の状況に応じて、練習の時間を設定する。	・ 児童が伝えたいことを英語で伝えることができるよう、支援する。 ・ 語句や表現について助言する。	▽タブレット ・ 必要に応じて言葉かけや支援を行い、コミュニケーションを行う目的を意識させるようにする。 ・ 児童の好例を積極的に称賛するなどして、活動への意欲が継続するよう配慮する。 ◎欲しい食材について、尋ねたり答えたりしている。 (行動観察・振り返りシート) ◎互いの考えや気持ちを分かり合うために、欲しい食材について、尋ねたり答えたりして伝え合っている。 (行動観察・振り返りシート) ◎互いの考えや気持ちを分かり合うために、欲しい食材について尋ねたり答えたりして伝え合おうとしている。 (行動観察・振り返りシート)
7分	・ 本時の活動を振り返る。	・ 振り返りの観点を示す。	・ 児童の活動についての感想を言う。	・ 児童の活動のよかった点を具体的に示すようにする。
5分	・ JTEのオリジナルピザの紹介を聞いて、次時への意欲をもつ。	・ 次時への意欲が高められるような話をする。	・ JTEが作ったオリジナルピザを紹介する。	・ JTEのオリジナルピザを紹介することにより、次時の活動への意欲を高めるようにする。

(3) 評価及び指導の例

「話すこと（やり取り）」「知識・技能」

「おおむね満足できる」と判断される状況	言葉につまったり、一部に言い間違いが見られたりするものの、欲しいものについて尋ねたり答えたりしている。
「おおむね満足できる」状況を実現するための具体的な指導	チャンツやゲーム等の活動を通して、繰り返し表現に慣れ親しませるとともに、適宜、指導者が個別に支援を行う。また児童が必要に応じてタブレット等を活用し練習に取り組めるようにする。

「話すこと（やり取り）」「思考・判断・表現」

「おおむね満足できる」と判断される状況	自分の言いたいことを相手に分かってもらうという目的に応じて、身振り手振りを交えるなどして工夫している。または、相手の言いたいことを理解するという目的に応じて、相手が言ったことを繰り返すなどして確認している。
「おおむね満足できる」状況を実現するための具体的な指導	本時のめあてを提示する際に、コミュニケーションを行う目的や場面、状況について、児童としっかり共有するとともに、中間指導の際、必要に応じて、再度言葉かけをしたり、好例を示したりして、自己調整を促す。

「話すこと（やり取り）」「主体的に学習に取り組む態度」

「おおむね満足できる」と判断される状況	自分の言いたいことを相手に分かってもらう、または、相手の言いたいことを理解するという目的に応じて、工夫して尋ねたり答えたりしようとしている。また、練習するなどして語句や表現をより正しく用いて尋ねたり答えたりしようとしている。
「おおむね満足できる」状況を実現するための具体的な指導	本時のめあてを提示する際に、コミュニケーションを行う目的や場面、状況について、児童としっかり共有するとともに、中間指導の際、必要に応じて、言語面や内容面について再度言葉かけをしたり、好例を示したりして、自己調整を促す。